

学べる  
憩える  
快適空間

## 図書館の魅力

### 『みんなの防災』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。3月のテーマコーナーは「みんなの防災」です。災害はいつどこで起こるかわかりません。いざというときのために、防災の知識を深め、命を守る備えをしましょう。(4月4日(月)まで)。

#### 『今どき防災バイブル

#### 家族と自分の命をつなぐ最新常識』(一般書)

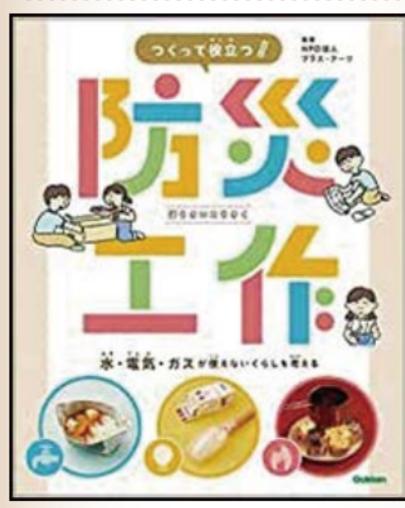
(富川万美/監修、主婦の友社/編 主婦の友社)



今、必要な防災アイテムは何?子供とペットを連れてどう避難するの?地震、津波、火事、台風、豪雨など、さまざまな災害への備えや被災時の対策を、イラスト入りの一問一答形式でわかりやすく解説する。

### 『つくって役立つ! 防災工作 水・電気・ガス が使えないくらしを考える』(児童書)

(プラス・アーツ/監修 学研プラス)



地震、台風、大雪など、災害が多い日本。水・電気・ガスが止まってしまったら?身近にある材料と道具で、災害などのときに役立つ工作を紹介。被災時は、生活がどう変わり何が必要になるかにも触れる。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

今回をもちまして、「図書館の魅力」を終了します。長い間、ご愛読いただき、ありがとうございました。今後も図書館をご利用ください。



### モータースポーツお宝探検隊 vol.11

今回のお題はスーパーカブ。言わずと知れたホンダのベストセラーバイクです。

そもそもホンダと鈴鹿市の出会いは、当時大ヒット商品となりつつあったスーパーカブの増産拠点として鈴鹿製作所を誘致(1960年開業)したことでした。

その成功は、ホンダの飛躍とともに鈴鹿サーキット誕生の原動力につながっていきます。そう、スーパーカブは「モータースポーツのまち 鈴鹿」の原点でもあるのです。

この傑作バイクに魅せられたのが栗飯原 敏さん(59歳 算所)。多くのバイクを乗り継いだ後にたどり着いたのがスーパーカブでした。今では初代から最新モデルまで30台近くを所有。さらにスーパーカブのテーマカフェまでオープンし、遠方から訪れる「カブ主」たちとの出会いやツーリングを楽しんでいます。

現在までなんと1億台以上生産され、世界中にたくさんの幸福をもたらしているスーパーカブ。愛好者だけでなく、鈴鹿のまちにとっても大切なお宝と言っていいでしょう。



▲栗飯原さんとスーパーカブ初代モデル(1958年)

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

### キーボード



年々、時が過ぎるのを早く感じるような気がします。特に誕生日を迎える早さ。誕生日がくるたびに、また一つ歳をとってしまったと思ってしまう。どうやら心理学では、これをジャンネの法則というらしく、50歳の人間の1年の長さは人生の50分の1だが、5歳の人間にとっては5分の1に相当するということに、1年の長さが相対的にどんどん小さくなり、時間を早く感じるようになるんだそうです。

さて、鈴鹿市は今年で80周年の節目を迎えます。今回の特集では「鈴鹿市のあゆみ」を紹介しました。年表にしてみると80年という月日はあっという間に感じてしまいます。しかし、数えきれないほどの出来事が積み重なってきたからこそその歴史です。この先も未来に向けてあゆみを続ける鈴鹿市。その市政の一端を担う職員として、一日一日を大切にして業務にあたりたいと思います。(一)